

# 隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第29回

森の彫刻家 上床利秋

創作活動は妥協しないこと、  
最後まで諦めないこと、  
ありがとうの気持ちをお忘れなさいことだなあ。  
(後編)

〈前編のあらすじ〉

縁あって巨大な楠を載せて木彫雷神を制作したが東京の展示会場に運べる業者が見つからず、自分で運ぶことに。ところが、借りる予定のダンクプカーは排ガス規制で使えないことが判明。万事休すと思っていたところに栗野の後庵クリニック院長後庵先生からランドクルーザーを貸してくださいと申し出を受けたのだ。

行程はランドクルーザーで高速道路を門司まで走り、フェリーで東京湾の有明埠頭に入り、そこから陸路で六本木の国立新美術館まで走っていき、出品後は急いで飛行機で帰るといって片道2泊3日のルート。車は展示会が終わるまで関東に住む大学時代の先輩に預かってもらう。

往路は中学時代からの友人と同行し、復路は単独逆コースで帰ってくるというプランが全行程である。

お金も多少はかかったが、初めての経験が多くて愉快な旅になった。フェリーは揺れることを心配したが、酔っ払いほど揺れることを心配したが、酔っ払いほど揺れることもなく、太平洋の青い海が爽やかで、ゆつくりと構想を練り原稿を書くこともできた。東京についてからの運転は不安もあったけれどナビが誘導してくれた。

巨大な荷物を覆った怪しげなランドクルーザーは見る人の目を引く。築地を通り抜け、かねてならば自分にとつて夜しか印象の無い運転台から見る銀座の朝の風景は新鮮だった。なんだか朝の天文館みたいだと思っ。少しドキドキしながら警官の立つ国会議事堂前を横切っていく。しかし、警官



木彫「雷神」部分／楠製



後頭部分を手鋸で切断し、内側からくり抜いて、白大理石の玉眼をはめ込んだ。黒目、および血管は油絵具で着彩した。



それまで面識のなかった院長先生が、新車のランクルを展示期間中ずっと貸してくださいました。

は「なんだろう？」とぼかんとした眼で見えていただけだった。日本って平和だ。やがて青山の墓地を過ぎて目的地国立新美術館にたどり着いたのだが、鹿児島でたとえろと南洲神社を過ぎて黎明館に作品を運ぶようなものだ。この道程は生粋の鹿児島育ちの自分にとって、なかなかの珍道中であった。帰りの飛行機があつてなく鹿児島空港に着くと、不思議な感傷に襲われた。

作品が大きいだけに、車から作品を降ろして組み上げる作業も、待ち受けてくれた運送業者の手伝いなしにはきつとスムーズにはいかなかったと思っ。

五十歳代最後の自分にできる精一杯の表現を東京で発表する、というわがままな夢の実現に、我がことのように家内をはじめ多くの友人や理解者たちが協力してくれた。時にはただの通りすがりの名も知らない人も助けてくれた。関わってくれたすべての人たちに感謝します。いつか

## レモン画材絵画教室 **ご案内**

- 隔週水曜日 10:00～ 油絵・水彩教室
- 隔週土曜日 16:00～ 油絵・水彩教室
- 隔週日曜日 16:00～ デッサン
- 隔週土曜日 ①10:00～ 子供絵画教室  
②13:30～
- 月1回第2木曜 10:00～ 和紙ちぎり絵教室

★ingミニセミナー〈POP文字・筆文字・絵手紙など〉  
チラシ等で随時ご案内致します。

お申し込みは TEL 0995-45-1015 国分進行堂・レモン画材まで

上床利秋

検索

このページのバックナンバーも読むことができます。

霧島市でも作品を発表してみたい。  
日展会員 第一幼児教育短期大学 教授  
ホームページ刷新しました。  
<https://douzou.jp/>